



ABCを続けると、南国市のどこ(地名)になるでしょう?

(ヒント)すべて南国市に関係があります

- タテ ①文化の森は〇〇〇山にできます  
②高知空港から離発着します  
ヨコ ③香長平野は〇〇どころです  
④ここも桜の名所です

締め切り 4月13日(月)必着  
あて先 〒783-8501 南国市大堀甲2301  
南国市企画課親子クイズ係  
賞品 正解者の中から抽選で、5人の人に図書券を進呈  
◎第310回親子クイズの答えは、  
ナガオドリ(オナガドリ)でした。

第310回当選者 応募総数 36通 (敬称略)  
竹村 澄子(前浜)  
門日 陽喜(植田)  
竹内 稚賀(岡豊町)  
細川 寿万子(十市)  
林 寿美(大堀甲)

# みんなの広場



## 公園や学校の樹木に名札をつけよう

高木 義博 (大堀甲)

山本周王郎氏の小説に「桜(モミ)ノ木は茂った」というのがある。数年前NHKの大河ドラマでも放送されたので有名になった。伊達家の御家騒動で忠臣原田甲斐守が深謀遠慮をめぐらし非業の最期の瞬間まで力を尽して、伊達家を守り抜いた物語である。彼が愛してやまなかった樹が桜ノ木である。彼の屋敷にある桜ノ木は、カヤに似た葉や枝のなりは、いかにも寒さ厳しい土地の木らしく、性が強そうに見えるが、なんとなく孤独な姿をしているように思えた。作者は表現している。原田甲斐守の性格や生涯を浮き出さず背景として最も適切な木である。

私はこの小説を読んでから一度桜ノ木を見てみたいと念願していた。クリスマスツリーに桜ノ木が使われることは知っていたが、大木としての桜ノ木はどのようなたたずまいをしていようかと、ハをしているか知らなかった。ところが先日高知城公園を散歩して一本の桜の大木に出会った。余程懐かしい人に出会ったような喜びを感じた。桜の大木に立派な名札がついていたから出会えたのである。それから注意して観察すると、いつもその前を通っていつか気付かなかった近くの中山先生宅、浜田氏宅に桜ノ木がひっそりと立っているのを知った。お城の木の名札によってこれらの木と知己になることができ、幸せである。

樹木は黙して語らずであるが、人間が樹木の名を知ることによって樹木に対する愛情が沸々としてわき起こってくる。これは自然環境保護運動の大きな原動力となる。

## 南国市ウォーキング

### ガイドマップコース紹介⑫

**野田コース**  
[周回コース] 野田地区 距離:約7km  
ウォーキングガイドマップ無料配布中

スタート・ゴール..野田公民館 (外にトイレ有り)  
経由地..大將軍神社(上野田城址)・野田城址

ワンポイントアドバイス...コースの交通量は比較的少なく、坂道もあまりありません。のんびりと歩くのにいいでしょう。

コース紹介...野田公民館を西に出発すると、すぐ左手に厳島神社があります。西に進み、舟入川に沿って上流へ進んでいくと赤い欄干の橋が架かっています。ここが大將軍神社です。神社を北へ抜けてから、東へ行き広城農道手前まで北の道を西へ戻ります。国道一九五号線とおち合う手前が、お堀路さんの接点です。ここを南へ折れて舟入川を横切ると上野田郵便局の横を通り野田城址(八幡宮)へ(途中、分かれ道がいくつあるのに注意してください)。西へ進み、後免野田小学校西側の道を通り、再び厳島神社を通り野田公民館へ帰ります。このコースは健康文化都市プランナーの吉川美さんからの推薦です。



コース図

※大將軍神社...上野田と西山の氏神様です。高台にあるので、以前は浜改田の松原や太平洋の彼方まで見渡せたそうです。境内のすぐ西側には八幡宮があり、上野田城(岩貞城)の守り神だっただろうです。

※歩こう会...毎月第一日曜日、午前七時野田公民館集合。四月は「野田コース」を歩きます。



今年になって、南国市の多くの学校の樹木に名札がつけられた。しかし樹の名前を知るのには容易ではない。担当された先生方の努力に感謝の他はない。「校庭の樹木」という本があるくらい、校庭にはユニークな樹が植えられている。香南中学校の樹木の中に樹名の分からない木が二本あった。樹木をこよなく愛される石丸教頭に高い脚立に上つて採取して頂いた小枝を家に持ち帰り、図譜とつき合わせて研究したが、一つはマテバシイかタブか判別がつかない、もう一つは調べるにも手のつけようがなかった。

そこで、翌日バイクで県立牧野植物園に教えを請いにいった。結果は前者がマテバシイ、後者はオガクマノキであった。オガクマノキは他にこの学校にあるナギとともに神社によく植えられる木である。先人が子どもの健やかな成長を祈って植えられたものである。日章小学校には高知に珍しいオリブの大木が二本ある。その大木の下で、この学校の児童たちは、さぞかしロマンチックな少年・少女に育って行くであろう。

これらの校庭に樹木の多い学校で学ぶ生徒は幸いなるかなである。学校に樹木がないと仮定すると、砂漠に校舎がポツンと立っているような風景となり、卒業後も美しい郷愁となって、母校が脳裏に出てくることはないであろう。神社・祠も同様であり、周りに樹がないと神秘性も尊厳もなくなる。私は樹木に名札をという運動が南国市から県内に広がるよう切望している。郷土が生んだ偉大な故郷野富太郎博士も地下で、それを一番望んでくださるであろう。